ほっと石川

1995 創刊号

県民と県政のネットワーク誌

●創刊特集
ブラジル石川県会館
完成記念訪問団リポート

●県政ウオッチング
女性リポーターが行く
石川県情報公開制度、4月から施行

●エトランゼの石川
県国際交流員
ジェームズ・ミラーさん

●知事の窓

●エッセイ
オーケストラ・アンサンブル金沢
音楽監督　岩城宏之氏

●施設ガイド
のとじま水族館

●クイズみんなでチャレンジ

●ぼくも知事、わたしも知事

●インフォメーション

ISHIKAWA PREFECTURE
石川県

変わらぬ郷土愛と絆の太さを実感

“石川村”の繁栄に不屈の移民魂

盛大に行われたブラジル石川県会館完成記念式典＝サンパウロ市内のホテル

創刊特集

Brazil

ブラジル石川県会館完成記念訪問団リポート

ブラジル石川県会館の完成を記念して、石川県から約一八〇人がブラジルを訪れました。谷本正憲知事を団長とする石川県訪問団代表は、五月一九日から二九日の日程で、サンパウロで開かれた祝賀行事に出席するとともに、マナウスの石川県出身入植農家を激励に回りました。行く先々で県人会の人々の笑顔に迎えられた一行は、異郷に生き抜く県人との絆を実感しながら、石川とブラジルの国際交流の拠点となる会館の完成を喜び合いました。

（写真提供：北國新聞社）

多彩な利用が可能の会館

ブラジル石川県会館が建設されたのは、サンパウロ市ビラ・マリアーナ地区で、公園が建物前に広がる閑静な地域の一角です。五七五平方メートルの敷地に建つ地上二階、地下一階、延べ床面積八三〇平方メートルの瀟洒な建物で、一階に催事にも活用できる集会場、二階に会議室、和室、応接室、宿泊室などが完備されています。

五月二一日、谷本知事はじめ県訪問団代表と県人会関係者により、テープカットが行われました。直前まで降っていた雨もやみ、石川から同行した天童太鼓の響きが開館の祝賀ムードを盛り上げました。前庭には桜の三年樹が植樹され、桜の木が年輪を重ねるごとに、県会館を中心とする活動が充実していくよう期待を込めました。

会館では、輪島塗、山中漆器、九谷焼、加賀友禅など石川が誇る伝統工芸品展示会が開かれ、石川の文化芸術の一端を紹介することができました。

県会館完成記念式典は五月二二日、サンパウロ市のマクソードホテルで行われました。サンパウロ州軍警音楽隊の演奏による日伯両国歌斉唱から始まり、県訪問団代表とサンパウロ州、同市関係者が次々と祝辞を述べました。

ブラジル石川県人会の中西忠勇会長は「石川県には四一の市町村があるが、県会館を四二番目の“石川村”に加えてほしい」と、古里への強い思い入れをにじませながら、会館竣工の喜びを語りました。

谷本知事は、今年が日伯修好通商条約締結一〇〇周年にあたるとして、「両国関係の節目の年に会館の完成をみたことは、日本とブラジル、石川県とブラジルの新たな友好の第一歩を踏み出す記念碑となる」と祝辞を述べました。

「石川文庫」で若い世代に石川を紹介

谷本知事は、ブラジル県人の海を越えての古里への熱い思いにこたえ、技術研修生、留学生の受け入れ枠を増大するとともに、会館内に「石川文庫」を創設することを表明しました。「石川文庫」は、県人会活動が二世、三世の時代に移っていることから、石川の実情、文化を紹介する文献、資料を整え、石川とブラジルを結ぶ「心の懸け橋」としたい狙いです。

谷本知事ら訪問団代表は五月二三日にアマゾン奥地のマナウスに入り、翌日、県人入植農家の生活ぶりを見て回りました。マナウスの港から車で四〇分、県人農家は未開の地に広大な農園を切り開き、それぞれに豪華な家を構えていました。養鶏を中心とする営農は現地の人を雇って大規模に行われ、“石川村”全体の繁栄ぶりもうかがえました。

夜には村の集会所で訪問団の歓迎会が開かれ、県人会婦人方の手作り料理でもてなしてくれました。多原勇マナウス県人会長が「石川の人に恥じないように頑張ってきた」と声を詰まらせるのを聞くにつけ、異郷の地で辛苦の上に今日を築いた県人のひたむきな努力に改めて胸を打たれる思いでした。

大規模な養鶏、野菜栽培などが行われる“南米石川村”＝マナウス市

日本人先没者慰霊碑に参拝する訪問団＝サンパウロ市

石川のブラジル移民史

大正6年から約2,300人が雄飛

石川県のブラジル移民史は、大正6年8月の3家族29人に始まります。当時の日本は、農村の凶作や人口増加の著しい時代で、移民たちは人生の夢を広大な大地を持つブラジルに託したのでした。

県内からのブラジル入植がピークを迎えたのは、大正末から昭和初めにかけてで、昭和2年から5年間で約630人に上ります。入植は第2次世界大戦により昭和16年で打ち切られますが、それまでの累計は約1,900人。在伯石川県人会が設立されたのは昭和12年です。

戦後は、昭和28年に国の5千家族導入計画が、アマゾンを中心とする地域で進められ、移住が再開しました。石川県関係者はアマゾン奥地のマナウス市エフィゼニオ・サーレス移住地に集中し、全世帯の3分の1を占めていることから、「南米石川村」と呼ばれています。

戦前、ブラジルへ渡った先人たちの多くはコーヒー農場で従事するコロノ（契約労働者）としてスタートしました。辛酸の中で自作農への脱皮を試み、今では養鶏や花き、野菜栽培を軸に、ブラジル農業と経済にしっかりとした根を下ろしています。

戦前、戦後を含めた石川県からの移民数は約530世帯、約2,300人。故郷・石川との絆も深く、昭和38年に珠洲市とペロータス市の間で姉妹都市提携がされたのを皮切りに、昭和42年に金沢市とポルトアレグレ市、昭和47年に小松市とスザノ市がそれぞれ姉妹都市の縁組みを結び、交流を続けています。

勇壮な天童太鼓の響きが祝賀ムードを盛り上げました＝サンパウロ市

瀟洒な外観が周囲に映えるブラジル石川県会館＝サンパウロ市

先人の辛苦しのび念願のシンボル完成に万感の思い

ブラジル石川県人会長
中西（なかにし）　忠勇（ちゅうゆう）さん（85歳）

ブラジル石川県人会は、創立以来、今年で58年目を迎えました。他県がそれぞれに連絡場所や会館を所有している中で、私どももいつの日か自前の会館を持ちたいと念願しておりました。

しかし、なにぶん小所帯の県人会であり、かなわぬ夢と思ってまいりましたが、この度、母県の大きな理解と協力の上に、全面的援助を受けることができ、会館建設にこぎつけました。言葉に言い尽くせない思いで感謝しております。

私自身は昭和８年、自由渡航でブラジルに渡りましたが、その前に移民として入った父親は、いわゆる義務農夫であるコロノとして農園に勤めました。その後50ヘクタールの土地を手にしましたが、思うように収穫を得られず、困窮の時が長く続いたわけであります。

ブラジル入植者は、大なり小なり苦労を重ねて今日を築いてまいりましたが、今は既に２世、３世の時代になり、若い世代がブラジルの日系社会を背負って立とうとしております。

石川県会館の建設も、こうした青年層の熱意で実現したものです。年をとった人間はやがて消えていきます。若い人が結束してやっていけると確信したからこそ、母県に協力をお願いしたわけです。

石川には世界に誇る芸術品もあります。会館を活用して石川の文化も伝えたいと考えています。今後の管理、運営についても力を貸していただきたく、会館が今後の日伯交流の拠点となることを念願しております。

県政ウオッチング Watching

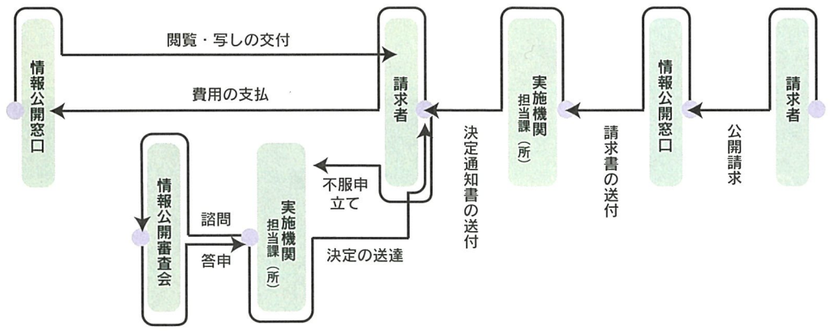
女性リポーターが行く

松任市成町
崎川（さきかわ） 美智（みち）さん（20歳）

平成7年3月、石川県立金沢女子専門学校を卒業。現在、松任農業高校で事務補助職員。趣味は音楽、絵画、バレーボールと多彩。

情報公開制度 4月からスタート

●手続きと流れ



ガラス張りへの確かな歩み 実感 プライバシーにも十分配慮

石川県は今年四月一日から、情報公開制度をスタートさせました。県が所有する情報を県民に広く公開し、ガラス張りの県政を目指すのが目的だそうです。とは言っても、私も含めて県民にはまだなじみが薄いのが実感です。そこで今日は、この制度の仕組みや内容について、「情報公開総合窓口」を訪ね、担当者にいろいろ質問してみました。

竹中専門員から公文書の索引の説明を受けました

膨大な公文書の簿冊 標題別の索引を整備

窓口は県庁本庁舎から南へ歩いて約三分、金沢市広坂一丁目の県庁第二南分室にあります。受付は二階で、書棚や机、ソファーが並び、気軽に利用できる明るい雰囲気です。応対に出られたのは専門員の竹中忠良さん。竹中さんによると、情報公開制度とは、県が作成したり取得した書類などを、県民の請求に応じて開示する「公文書の公開」と、県の保有する情報を県民に提供する「情報提供」の二つの柱からなっているとのことでした。

県庁といっても中学生の時に一度、見学で来ただけ。公文書と言われてもピンとこない私の表情を察して、竹中さんは「公文書の標題を集めた索引がありますよ」と、書棚から取り出し、丁寧に説明してくれました。ページをめくると、県庁の各課別に文書のタイトルがずらりと並んでいます。

公開の対象となるのは、平成七年四月以降に決裁などの手続きが終了した公文書と、同三月末までの公文書で保存期間が永年のものです。後者については、現在、整備した分から順に公開していますが、全体の簿冊数は実に一〇数万冊！に上るとか。前者については、保存期間が永年だけでなく、一、三、五、一〇年と区切られたものも加わるため、その分量はさらに膨大になるそうです。

栄養調査データにアクセス 公開拒否には不服申立ても

「国民栄養調査のデータが見たいのですが？」。栄養士の資格を持つ私は、早速、関心のある分野で情報公開に挑戦してみました。少し緊張しながら待っていると、竹中さんが担当課と連絡を取られ、「この調査は、既に結果が資料になっており、公開請求がなくてもお見せできます」との回答。つまり、情報提供に該当するというわけです。

「開かれた県政は賛成だけど、個人情報が他人に見られる心配はありませんか？」。プライバシーのことがちょっと気になり尋ねました。「大丈夫ですよ」。竹中さんの説明によると、公文書は公開が原則ですが、名前や住所、経歴などの個人情報で、個人が識別されるような場合は、プライバシー保護の観点から非公開になるそうです。

また、県では現在、県の保有する個人情報に誤りがないか、適正に利用されているかなどを、本人自身が確認できる総合的なプライバシーの保護制度も研究中とうかがいました。

一方、公開を請求して拒否された時の救済措置として、県に対して不服申立てができます。不服申立ては、公正さを確保するため学識経験者で構成する情報公開審査会で審議され、その結論を尊重して、県が申立てに対し決定するとのことです。

受付はとても明るい雰囲気です

エトランゼの石川

石川県国際文化交流センター・県国際交流員
James J.Miller
ジェームズ・ミラーさん(25歳)

国際化の原点は自分をもっと知ること

外国語能力はあくまでも道具

英語を話せることを得意がる日本人留学生がいますが、私は言葉は気持ちを伝える道具の一つに過ぎないと思っています。それよりも、自分の国や育った地域のことを、深く勉強して理解するのが一番大事です。

例えば、加賀の国の一向一揆。それは日本の民主主義の原点だった、と私は聞いています。しかし、社会科の教科書には「加賀の国で一向一揆があった」としか記されていません。こんな、丸暗記の勉強で本当に歴史が分かるのか疑問です。国際化はまず足もとからです。

私が初めて海外に出たのは一七歳、高校生の時です。とにかく海外が見たかった。地元のロータリーの選抜で福井県へ派遣されましたが、楽しい一年を過ごした中で、自分を子供扱いする点にだけは不満を感じました。

帰国後に東洋学を経済学を専攻したカンザス州立大学で、日本から留学生として来ていた妻と知り合いました。再来日に当たって東京や大阪の都会でなく、石川県を希望したのは、緑が多く、教育水準が高くてしっかりしていることに魅力を感じたからです。

故郷に似た石川県に共感

故郷のカンザス州はアメリカでも田舎です。石川は故郷と似た部分も多く、共感を覚えます。町内会など地域コミュニティーがしっかりしていて、みんなで協力して、町を美しく掃除するなど……いろいろあります。

また、伝統や芸能を守っているのが素晴らしいですね。私も能楽や琴が好きです。地域に根ざした文化や方言は大切にすべきだと思います。個人のプライバシーがあまり尊重されないのには、ちょっと困りますが。

固定観念捨て、リラックスを

石川県が国際化を目指す上で、いろんな課題があると思います。新聞記事によると、日本では人種によって固定したイメージを持っているようです。一例を挙げれば、白人＝英語教師、中国人・アラビア人＝工場労働者です。

アメリカには人種差別がないとは言いませんが、英語を話し、仕事に就いていれば人種に関係なく外国人という見方はしません。日本人は肩ひじを張り過ぎて、逆に自分と他人の間に溝を作っているような気がしてなりません。

それから、もっと議論してはどうでしょうか。日本では、目下の者が目上の者に有無を言わず従うのが当たり前のような風潮です。国際化の中では、自分をどう表現するかが重要なポイントの一つなんですよ。いわば、自己主張は国際ルールと言えるでしょう。

議論とは「勝ち」「負け」を決するのではなく、お互いに意見を交わし、理解し合うことだと受け止めるべきです。

●プロフィール
アメリカ・カンザス州出身。平成五年、カンザス州立大学を卒業。同年七月、石川県国際文化交流センターに着任。英会話の講師や外国人へのカウンセリング、通訳、翻訳などで活躍中。趣味は登山。能や琴など日本文化にも強い関心を持っている。

同僚と仕事の打ち合わせをするミラーさん
＝石川県国際文化交流センター

知事の窓

A MESSAGE FROM TANIMOTO

"窓"へたくさんの風を

お手元に届いた石川県の新しい広報誌"ほっと石川"。創刊号をご覧になって、どんな感想を持たれたでしょうか。「へえー、おもしろいじゃないか」「工夫が足りないな」。きっと、さまざまなご意見があると思います。

さて、本誌の発刊に当たっては、県政への積極的なご参加をいただくきっかけになればとの思いから、取材や企画に広く県民の皆さまの参加をお願いすることにしました。皆さまの率直な声を政策に反映し、県民と県庁のネットワークをさらに広げ、開かれた県政に役立てたい。そんな熱い思いを込めています。

早いもので、知事に就任して一年余りがたちました。県内各地を回ると、いろんな方から励ましや、時にはおしかりも受けます。まだまだ勉強不足。頑張らなければと肝に銘じています。

誌面にこの"知事の窓"を設けたのも、私はこんなふうに感じたり、考えていますが、県民の皆さまはいかがですか、というように本音のキャッチボールを続けていきたいと願うからです。風を通すのに開けた"窓"です。皆さまから送られるさまざまな風を楽しみにしています。

（谷本 正憲）

Essay 石川への思いを託して

オーケストラ・アンサンブル金沢 音楽監督
岩城（いわき） 宏之（ひろゆき）氏

出光音楽大賞受賞記念コンサート＝東京・サントリーホール

最高の音楽を最高の環境の中で 石川県民に聴いてもらいたい それが、ぼくの大きな夢だ。

オーケストラ・アンサンブル金沢を率いて音楽界に新しい風を送り続ける岩城宏之氏は、戦後の一時期、旧制金沢一中（現・金沢泉丘高校）に学んだことがあるほど石川県とのゆかりが深い。その岩城氏が辛口も交えながら、独自の視点で石川県への思いをつづってくれました。

「アンサンブル金沢を世界一のオーケストラに育て、日本中のオーケストラの古い体質を改革していきたい」

今年三月、アンサンブル金沢が出光音楽大賞を受賞した祝賀パーティーの席上、ぼくは思い入れたっぷりにこんなセリフを吐いたものだ。

音楽界のレボリューションの拠点が、なぜ金沢であり、石川なのか。

簡単な話、日本列島を眺めてみても日本海側に本物と呼べるオーケストラが一つも存在しない。

ならば、文化都市金沢こそが、その拠点にふさわしいと考えたわけだ。

もともとぼくの家系は石川県と縁が深い。父は富山県魚津市の出身だが、四高に学び、金沢で青春時代を過ごした。母も石川県立第一高女の音楽部員として頑張っていたと聞いている。ぼく自身も、戦争中、空襲で東京を焼け出され、金沢の伯父のところに転がり込んで、金沢一中で半年間、学んだことがある。

しかし、音楽革命の拠点に石川県を選んだのは、そうしたノスタルジックな思いとは全く無関係だ。

石川県、金沢という土壌には新しい文化を創り、育て上げていくエネルギーがあると信じたからだ。

たとえて言えば、九谷焼も当時の時代環境からすれば、とんでもない革命児の出現だったはずだ。連綿とした伝統文化の積み上げは、そこに新しい文化を育て上げようという特有の気風が存在していないとできない所業であるとぼくは思い込んでいたのだ。

ところが今になって、この認識はひょっとしたらぼくの大いなる、美しき誤解だったのではないかと感じ始めている。

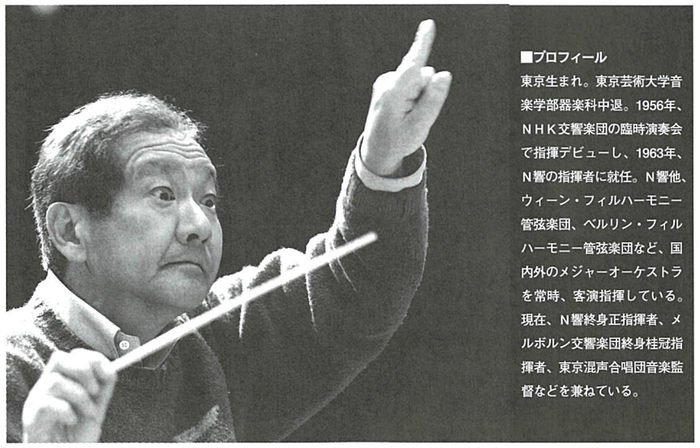
「百万石文化とは、そもそもが庶民が築き上げたものでも何でもなく、加賀藩の殿様が導入し、庶民に浸透させていったもので、石川の地の民衆には自発的に自らの文化を創造していく気概が薄いのではないか、と。

アンサンブル金沢は設立からすでに七年が経つ。日本的にも世界的にも評価は年々高くなってきていると自負している。小編成のオーケストラとしては、完全に世界のトップ水準にあると、内外の評価も得ている。

それなのに、石川県には最高水準の音楽を最高の環境で聴かせるコンサートホールがないのは本当に残念なことだ。

全国各地では最高の音楽堂が競うように建っている。隣の福井県でも計画は着々と進行している。しかし、福井にしても他の地域にしても、そのホールで演奏する最高の楽団を擁していない。ハードは造れても、ソフトを養成するのは極めて困難なことなのだ。石川県は最高の料理があるのだから、後はそれを食べさせる店がぜひともほしい。

ぼくの夢は、最高の音楽を最高の環境の中で石川県民に聴いてもらいたい。そして、その感動を新しい文化創造のエネルギーに変えていきたいという一点だ。今後の実現に期待したい。


撮影：ルドヴィット・カンター

■プロフィール
東京生まれ。東京芸術大学音楽学部器楽科中退。1956年、ＮＨＫ交響楽団の臨時演奏会で指揮デビューし、1963年、Ｎ響の指揮者に就任。Ｎ響他、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団など、国内外のメジャーオーケストラを常時、客演指揮している。現在、Ｎ響終身正指揮者、メルボルン交響楽団終身桂冠指揮者、東京混声合唱団音楽監督などを兼ねている。

施設ガイド

のとじま水族館

利用案内

開館時間	午前9時～午後5時（3月20日～11月30日） 午前9時～午後4時半（12月1日～3月19日）
休館日	年末年始（12月29日～1月1日）
入場料	一般 1,300円 中学生以下 400円（3歳未満を除く）

能登島町曲 TEL 0767-84-1271

●案内役
金沢市高柳町
清水 与四郎（よしろう）さん（会社員）
和美（かずみ）さん（主婦）
友雅（ゆか）さん（北鳴中学校１年）
裕貴（ゆうき）くん（小坂小学校５年）

北陸一のリゾート・アイランド たくさんの魚たちが待ってます！

巨大な水槽とイワシの群泳に感嘆する清水さん一家

昭和五七年、能登島町と七尾市を結ぶ能登島大橋の開通と同時にオープンしたのとじま水族館は、その後も魅力ある施設整備が進んでいます。今回は、金沢市にお住まいの清水さんご一家に、海の生き物たちと触れあえる「のとじま水族館」を訪ねてもらいました。

楽しみながら生態を勉強

清水さんご一家は今年四月、能登島町の家族旅行村Ｗｅランドでアウトドアを満喫したそうですが、のとじま水族館は初めて。真っ先に車を降りた裕貴くんは、「早く」と皆をせかします。

「当館は北陸近海に住む魚の展示が中心。繁殖や保護、生態調査もしています」。展示科長の桶田俊郎さんの説明によると、のとじま水族館では日本有数の五三一種、計四万点を超える魚介類や水生動物が観察できます。

海に面したイルカプールでのイルカ・クジラショーでは、四頭のイルカが軽快にキャッチボールやフリスビー、輪くぐりなどの特技を披露します。人気者・オキゴンドウクジラのウララも大きな体で豪快にジャンプ。歓声を上げて喜ぶのは子供たちだけではないようです。お父さん、お母さんも身を乗り出して拍手！

おすましウララと記念撮影

友雅さんと裕貴くんはステージに上がってイルカのお姉さんのお手伝いをしました。友雅さんが投げた輪をプールの向こう側でカマイルカのティアラがキャッチ。最後はおすましポーズのウララと一緒に記念写真。背中をなでた二人の感想は「思ってたより硬い体だった」（友雅さん）、「スベスベして気持ちよかった」（裕貴くん）。

海の自然生態館では、ジャイアントケルプと呼ばれる巨大コンブと国内では六館にしかいないイロワケイルカ、通称パンダイルカを観賞。「コンブが大きくて水槽が小さく見えるね」と与四郎さん。イロワケイルカのアレーナはこの時、妊娠中。（六月二十三日、無事出産）「ね、赤ちゃんが生まれたらまた来ようね」という友雅さん、裕貴くんの言葉に両親も笑顔でこたえます。

のとじま水族館では、ゴーカートやモノレール、テニス、海づりなども楽しめます。水族館近くには、石川県能登島ガラス美術館やガラス工芸と陶芸を体験できる「たくみの里」、オートキャンプ場の家族旅行村Ｗｅランドなどがあります。夏には海水浴もでき、いまや能登島は北陸一番のリゾート・アイランドといったところでしょうか。

平成一一年三月には中島町との間に農道橋が完成予定です。奥能登地域とのアクセスもますます良くなる能登島町に、ぜひ一度、遊びに来てください。

ウララとの記念写真も思い出に

クイズ みんなでチャレンジ

正解者の中から抽選で30名の方に、のとじま水族館特製テレホンカードを贈ります。ふるってご応募下さい。

Q1 のとじま水族館で現在、観察できる魚介類、水生動物の数は？
①約四百点 ②約四千点
③約四万点

Q2 のとじま水族館の人気者、オキゴンドウクジラの愛称は？
①ティアラ ②アレーナ
③ウララ

Q3 パンダイルカで親しまれている体が白と黒のイルカの正式名称は？
①シロクロイルカ
②イロワケイルカ
③モノトーンイルカ

はがきに、クイズの解答と住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ〒920－80（住所不要）石川県広報室「ほっと石川」係までお送り下さい。締め切りは平成7年9月末日。

県広報誌　ほっと石川　第一号

平成七年七月二〇日発行　発行　石川県県民生活局広報室　〒九二〇－八〇　金沢市広坂二－一－一　電話（直通）〇七六二－二三－九一〇六

ぼくも知事 わたしも知事

「石川県を安全な県にする」

金沢市小立野小6年
渡邉（わたなべ）　宏介（こうすけ）くん

もしもぼくが知事になったら、やってみたいことが三つあります。

一つめは、交通事故や犯罪などによって、人が死ぬことをなくしたいということです。なぜなら、日本では、交通事故がとても多いからです。石川県では、一年間に約一〇〇人の人が、交通事故で亡くなっています。

また、よその県では、毒ガスによる犯罪が起こって、死亡者がでています。とても人ごととは思えません。このようなまちがいを起こした人が、もう二度とこういう事をしないように、社会復帰をするための施設を作ることも大切だと思います。

二つめは、知事になっても、偉い人にしかできない活動だけじゃなく、ふつうの人たちもやっているクリーン活動などにも、どんどん参加したいということです。

三つめは、「県民すべてをゆとりのある生活に導いていきたい」ということです。これは、ぼくが知事になったとしたら、一番大きな課題だと思います。

一つめに出たけれど、毒ガスなんかをまかれたら、ゆとりどころか不安をあたえてしまいます。だから、まずは、石川県を「安全な県」にして、県民すべての人をゆとりのある生活に導いていきたいです。

「美しい海や川を守りたい」

輪島市上野台中1年
南（みなみ）　史代（ふみよ）さん

日本海は昔から、人々に親しまれてきた海です。たえまなく波打つ海岸線には、カモメやトビなどの鳥たちがたくさん、生活しています。

朝日や夕日などが見られる時は、海がオレンジ色に染まる、とてもきれいな海です。私は、こんなきれいな海のある所で育ったことを誇りに思い、いつまでもきれいな海であってほしいのです。

しかし、輪島市には下水処理場がありません。家庭排水などで汚れてしまった水は、そのまま海や川に流れ出て、海や川を汚す大きな原因の一つとなります。汚れてしまった水は、きれいな水に戻るまでには長い年月がかかります。

また、人間だけでなく、海や川を生活の場とする、鳥や魚の幸せを奪いとるような、大きな害になります。

もしも私が知事だったら、こんな理由で自分たちの住んでいる地球の海を、汚れた海に変えていくのはいやです。人間をはじめ、鳥、魚などが住みよい美しい自然やきれいな水を守っていきたいと思います。

INFORMATION インフォメーション

アスペン音楽祭'95イン石川
8月30日～9月1日
●室内楽コンサート
8月31日
加賀市文化会館
9月1日
白山麓健民体育館
●オーケストラコンサート
8月30日
七尾サンライフプラザ
8月31日
石川厚生年金会館

アスペン国際シンポジウム'95イン石川
10月24日～26日
10月24日
石川県地場産業振興センター
10月25日
鶴来町社会教育センター
10月26日
七尾サンライフプラザ

いしかわ秋の芸術祭95
11月1日～5日
●石川の伝統・民俗芸能とファッションパフォーマンス
11月1日
金沢市文化ホール
●邦楽の夕べ
11月2日
金沢市観光会館
●雅楽の調べ
11月3日
金沢市観光会館
●アジアの響き
11月4日
金沢市観光会館
●いしかわの邦楽
11月5日
金沢市観光会館

ほっと石川・参加者募集

県民参加型の広報誌を目指す「ほっと石川」では、「県政ウオッチング」に登場していただく女性リポーター、「施設ガイド」で県営施設の案内役をお願いする家族を募集します。また、小学校高学年から中学校三年生までの児童・生徒を対象にした「ぼくも知事、わたしも知事」の作文（六〇〇字程度）も募集します。皆さまのご参加、ご応募をお待ちしております。

お問い合わせ、申し込みは、

〒920－80（住所不要）
石川県広報室　「ほっと石川」係
☎0762(23)9106

はがきの場合は、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。「ぼくも知事、わたしも知事」の作文は、学校名や保護者名も明記して送付して下さい。

TANMOTO
前略
谷本知事

県広報誌「ほっと石川」についてのご意見・ご感想、県政に対するご提案・ご相談などを、『前略 谷本知事』係まで、はがきか封書でお寄せ下さい。住所・氏名・年齢・職業・電話番号も必ず明記して下さい。

〒920－80（住所不要）
石川県広報室　「前略　谷本知事」係

編集後記

県民の皆さまが広報誌を通して、県政への関心を高め、県政に参加される機会を持っていただくためには、どんな情報が必要なのか。従来の県広報誌とは性格を異にするだけに、積んでは崩す作業が続きました。どこまで、その狙いを満たしえたかの判断は皆さまに仰ぐとして、この新しい広報誌が「ほっ」と安心できる県政の橋渡しとなれるよう、頑張っていきます。次号の発行は、来年一月の予定です。県民の皆さまが育てる広報誌として、ご愛読、ご叱咤のほどをよろしくお願いします。